

国語科学習指導案

日時 平成29年2月17日(金) 2校時
児童 3年生
授業者
授業場

1 単元名「アベンジャーズ・プロジェクト：リーフレットでおもしろ実験・観察を2年生に紹介しよう」～どちらが生たまごでしょう～

2 単元の目標

科学的な説明文を読んでリーフレットにまとめる言語活動を通して、結論とその理由や根拠、事実とそれに基づく意見との関係を考えながら、段落相互の関係を捉えて読むことができる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、記録や報告の文章、図鑑や辞典などを読んで利用する言語活動を通して、結論とその理由や根拠、事実とそれに基づく意見との関係を考えながら、段落相互の関係を捉えて読むことや、目的に応じて様々な分野の本や文章を読む態度を養うことを目指している。

また、本単元で扱う中心教材「どちらが生たまごでしょう」は、15の形式段落と3つの大きな意味段落で構成されており、「ゆで卵と生卵を、殻を割らずに見分けることができないのか」という疑問から出発し、見分ける方法の発見、そうなる理由、回る力に対して妨げる動きをする生卵の仕組みの利点へと考えを高めていく過程を描いた文章である。さらに、筆者は読者を納得させるために、予備知識を活用し、新たな見方を提示し、追実験でさらなる納得を図り、その理由を解説する巧みな構成をとっている。また、言葉だけではイメージしにくい事象に対して、文章内容を補完する写真の効果も大きい。

このような中心教材の特色は、児童が段落のつながりや論の進め方の巧みさ、写真や表など非連続型テキストの果たす役割を感じながら、結論とその理由や根拠、事実とそれに基づく意見との関係を考え、段落相互の関係を捉えて読むことに適したものであると言える。

(2) 目指す児童・生徒像

児童はこれまでに、「読むこと」領域(説明的文章)においては次のような活動を体験し、言葉の力を身に付けてきた。

これまでに児童の体験した活動	それによって既得した言葉の力	前単元までに既に身に付けている言葉の力なので、本単元では活用を図るもの
○記録や報告の文章を読んで図鑑を書く活動	○必要な情報を得る上で、中心となる語や文に着目しながら読む力	○単元の見通しをもち大まかな計画を立てる力
○記録や報告の文章を読んで、報告文を書く活動	○必要や情報を得る上で、中心となる語を文に着目しながら内容を整理し、段落相互の関係を考えて読む力	○中心となる語や文に着目して読む力 ○要点をまとめたり小見出しをつけたりしながら内容を整理して読む力 ○段落相互の関係を考えて読む力

このような児童の実態から、本単元における目指す児童像を、おもしろ実験・観察リーフレットを作り2年生に紹介するという『単元を見通す言語活動』を体験しながら、複数の「記録や報告の文章」を比較しながら読むことを通して『結論とその理由や根拠、事実とそれに基づく意見との関係を考え、段落相互の関係を捉えて読む』言葉の力を自身のリーフレットの内容に生かして読んだり書いたりする姿とした。

(3) 指導観

「認識から思考へ」「思考から表現へ」のプロセスを重視した言語活動の充実

本単元では、「各教科や日常の言語生活との結びつき」を意識して学習過程をデザインしていく。「各教科との結びつき」では、理科「実験・観察」の学習内容との関連を図り、中心教材「どちらが生たまごでしょう」の「生たまご」と「ゆでたまご」を見分ける時のように、今まで自分が体験したことのある「実験や観察の科学的読み物」の中から紹介したいものを選ぶ活動を位置付ける。これによって、児童と出会う言葉に接点生まれ、どのような方法で紹介するのか「適した紹介方法」を考えるようになるはずである。「日常の言語生活との結びつき」では、科学的読み物を紹介する表現様式として「リーフレット」を扱うこととする。リーフレットは、文章と写真や図・絵・表などが融合し、視覚的にわかりやすく事象を

伝えられたり、挿入する絵や写真に沿った見出しや内容を吟味するなど「紙面構成」を工夫することができたりするという特徴を有し、日常生活において児童が目にする機会が多く、自分との接点を見いだしやすいものであると考える。このような2つの結びつきを意識することによって、「認識から思考へ」「思考から表現へ」という言語活動の充実が図られていくはずである。

これら（上記2点を含む）を踏まえ、次のような「見方・考え方を内包する思考」を段階的に引き出し、目指す児童の姿につなげていくこととする。以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

目指す獲得させたい言葉の力
 結論とその根拠、事実とそれに基づく意見との関係を考えながら、段落相互の関係を捉えて読む力

国語科において「目指す対話的な学び」

引き出したい「ねらいとする見方・考え方」を内包する思考

- ・リーフレットの特徴は、写真や見出しが使われていて、文章が短くまとめられているね。
- ・紹介したい「実験・観察」のリーフレットの構成を決めよう。科学的な読み物の**仕組み**はどうなっているのかな？
- ・**文章の組み立て方**が大体同じだね。使われている**言葉**も似ているものがあるよ。「はじめ」「なか」「おわり」もあるのかな？
- ・どこまでが「はじめ」「なか」「おわり」なのかな？どちらが生まれてしょうを読んでみて、大まかに分けてみよう。**分ける時の根拠**は何か？
- ・「なか」はどこから始まるのかな？「では」という言葉は、「**話題を切り替える言葉**」だから、「なか」は③段落から始まるはずだね。
- ・どこまでが「なか」のまとめりかな？「こうして」は、**実験をまとめる言葉**で、「ところで」は、**話題を変える言葉**だから、⑩段落までのはずだね。
- ・構成が決まったよ。「はじめ」「なか」「おわり」に合う写真や情報を選んでリーフレットにまとめよう。

本単元において目指す児童の姿

①単元を見通すことができる言語活動と一単位時間の言語活動を有機的に結び付ける～Ⅰ

本単元では、言語活動例オ「必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読む言語活動」を取り上げ、それを具体化した「単元を見通すことができる言語活動」を、「おもしろ実験・観察リーフレットを作り、2年生に紹介することとした。そうすることで、「自分が紹介したいおもしろ実験・観察の文章を選ぶ」必要性と、中心教材を主としながら様々な科学的な読み物を読んで「科学的読み物の大まかな内容を捉える」「リーフレットの構成（小見出し）を決める」「必要な情報を選ぶ」等、段落相互の関係を捉えるための一単位時間に必然性が生まれ、単元と一単位時間が有機的に結びついていく（大きな課題にスモールステップで迫る一単位時間の小課題）と考える。

②ねらいとする「見方・考え方」を引き出す「核となる文章・表現」への着目を促す教師の関わり～Ⅱ

前述のような「ねらいとする見方・考え方」を内包する思考を引き出していくために、一単位時間において次のように教師が関わり、「核となる文章・表現」への気づきを促していく。

時	核となる文章・表現	教師の関わり
3	言葉の使い方 「問いの文」 文章の大まかな構成	科学的な読み物の共通点は何かを問うことで、文章の大まかな構成や言葉の言い回しが似ていることへの気づきを促していく。
4	大事な言葉 中心となる文 「はじめ」「なか」「おわり」の構成	「はじめ」「なか」「おわり」を大まかに分けた理由を吟味できるような状況を設定し、分けた根拠を問う。根拠を交流する中で、段落の表を黒板に提示し、「大事な言葉」や「中心となる文」への気づきを促し、読み物の大まかな内容を捉えらるるようになる。
5	では 問いの文 段落のまとめり	選んだ考え方とその根拠を吟味できるような状況を設定し、分けた根拠を問う。根拠を交流する中で、「では」という話題を切り替える言葉や「問いの文」への気づきを促し、選んだ考え方への根拠に妥当性を持つことができるようになる。
6	段落のつながり こうして ところで 実験①と結果→実験②と結果→実験③と結果→まとめ	選んだ考え方とその根拠を吟味できるような状況を設定し、分けた根拠を問う。根拠を交流する中で、「こうして」という段落のつながりをまとめる言葉や「ところで」という話題を切り替える言葉への気づきを促し、選んだ考え方への根拠に妥当性を持つようになる。

4 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・技能
ア おもしろ実験・観察リーフレットを書くために、本や文章の選び方や利用の仕方を工夫しようとしている。 イ おもしろ実験・観察リーフレットの紹介したい中心的部分がよくわかるように内容を紹介している。	ア 文章の要点や細かい点に注意しながら読み、疑問に思ったことや課題としてさらに調べたいことなどを明らかにして読んでいる。 イ 知識や情報を選択したり表現の仕方に着目したりして読んでいる。 ウ 必要な情報を得る上で中心となる語や文に着目して読んでいる。 エ 結論とその理由や根拠の関係など、段落相互の関係を考えながら読んでいる。	ア 指示語や接続語は、文相互の関係、段落相互の関係を端的に示す手掛かりになることを理解し、文章を読んでいる。

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学習活動	手立て
<p>教師が作成した数種類の科学的な読み物を紹介する。</p>	<p>1 時間目</p> <p>おもしろ実験・観察リーフレットを作って2年生に紹介するための見通しを持ち、学習計画を立てる。 関ア</p>	<p>リーフレットを作るための手順を交流することで、「構成」や「各ページの内容」等を考える必要性が生まれるようにする。 I</p>
<p>教師が作成した数種類のリーフレットを紹介し、読む時間を保障する。</p>	<p>2 時間目</p> <p>見本のリーフレットを見合い、リーフレットの特徴について交流する。 読ア</p>	<p>数種類のリーフレットを読んで気付いた特徴について交流することで、「写真を使うことでわかりやすく示していること」や「文章を短くまとめていること」に気付くことができるようにする。 II</p>
<p>2年生に紹介したい「おもしろ実験・観察」の科学的読み物を選ぶ時間を保障する。</p>	<p>リーフレットの特徴は、「写真を使ってわかりやすく表す」こと、「文章を短くまとめること」が特徴である。</p>	
<p>中心教材「どちらが生たまごでしょう」と、比較教材を提示する。</p>	<p>3 時間目</p> <p>科学的な読み物を読んで、共通点について交流する。 読イ</p>	<p>似ているところは何か、を問うことをきっかけとして、各段落の「問いの文」や「言葉の使い方、言い回し」への着目を促し、共通点に気付くことができるようにする。</p>
<p>自分が選んだ「科学的読み物」の文章を読む時間を保障する。</p>	<p>科学的な読み物は、「問いの文」などの文の組み立てや、言葉の言い回しが共通している。</p>	
<p>中心教材「どちらが生たまごでしょう」と、比較教材を提示する。</p>	<p>4 時間目</p> <p>科学的な読み物を読んで、リーフレットの構成（「はじめ」「なか」「おわり」）を大まかに分ける 読ウ</p>	<p>「はじめ」「なか」「おわり」に分けた根拠を交流することで、各段落の「大事な言葉や中心となる文」への着目を促し、現時点で構成を分けた根拠の妥当性を高めることができるようにする。 III</p>
<p>自分が選んだ「科学的読み物」の文章を読む時間を保障する。</p>	<p>段落の大事な言葉や文に注目して読むと、大まかに「はじめ」「なか」「おわり」を分けることができる。</p>	
<p>「なか」のまとまりが③段落から始まるという考えと④段落から始まるという考えを提示する。</p>	<p>5 時間目</p> <p>科学的な読み物を読んで、リーフレットの「はじめ」と「なか」のまとまりについて交流する。 言ア</p>	<p>自分が選んだ考え方とその根拠を交流することで、「では」という接続語の使い方や、「問いの文」への着目を促し、「はじめ」と「なか」のまとまりを分けた根拠の妥当性を高められるようにする。 II</p>
<p>自分が選んだ「科学的読み物」の文章を読む時間を保障する。</p>	<p>「では」という話を切り替える言葉や「問いの文」に注目すると、「はじめ」「なか」のまとまりを分けることができる。</p>	
<p>「なか」のまとまりが⑩段落までという考えと、⑬段落までという考えを提示する。</p>	<p>6 時間目（本時）</p> <p>科学的な読み物を読んで、リーフレットの「なか」と「おわり」のまとまりについて交流する。 読エ</p>	<p>自分が選んだ考え方とその根拠を交流することで、「こうして」や「ところで」という言葉への着目を促し、段落のつながりや段落相互の関係を捉えることができるようにする。 II</p>
<p>自分が選んだ「科学的読み物」の文章を読む時間を保障する。</p>	<p>「こうして」という段落をつなげてまとめる言葉や、「ところで」という話題を切り替える言葉に注目すると、「なか」と「おわり」のまとまりを分けることができる。</p>	
<p>単元の活動を振り返る時間を保障することで、獲得した言葉の力の自覚化を図ることができるようにする。</p>	<p>7 時間目</p> <p>自分の選んだ科学的読み物でリーフレットを書き、2年生に紹介する。 関イ</p>	<p>単元の学びを振り返り、活動のよさに気付くことができるようにする。 I</p>

6 本時について（6／7時間目）

（1）本時の目標

科学的読み物の「なか」のまとまりについて書いたり交流したりする言語活動を通して、結論とその理由や根拠の関係など、段落相互の関係を考えて読むことができる。

(1) 本時における研究の視点

本時においては、主にⅢの手立てについて講じていく。「妥当だと判断した『なか』のまとまりを分ける分け方」を選んだ根拠を交流する必要感を生み出すような状況を設定し、分けた根拠を問いながら、「まとまりの分け方のちがいを」比較することで、根拠とした文章や段落のまとまりに着目できるようにする。その中で、「ところで」という話題を切り替える言葉への気付きを促し、さらに「なかのまとまりがつながっている証拠」を問うことで、「そこで」「こうして」などのつながりを表す言葉への気付きを促し、「なか」と「おわり」のまとまりを分ける際の根拠を高めることができるようにする。

(2) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導 (▲)
<p>1 前時までの活動を振り返り、本時の見通しを持つ。</p> <p>前の時間は、「はじめ」のまとまりと「なか」の始まりを見付けることができたね。</p> <p>今日は、「なか」と「おわり」のまとまりを分けよう。</p> <p>どこで分けることができるのかな。おわりはどここの段落からかな。</p> <p>⑩段落までかな。こうして、という言葉が気になるな。</p> <p>⑬段落までかな。最後の段落だけ意味がちがう気がするな。</p> <p>理由がはっきりすると、構成もはっきりするね。</p>	<p>○本時の学習計画を確認することで、リーフレットを作るために中心教材を読み、科学的読み物の「なか」と「おわり」のまとまりを分けるという見通しを持つことができるようにする。</p> <p>□数種類の「なか」と「おわり」のまとまりの分け方を提示することで、どの分け方が妥当であるか現時点における判断ができるようにする。 A-①</p> <p>○当該単元の目的に立ち戻り、リーフレットを完成させるために妥当である理由を明確にするという必要感が生まれるようにする。 手立てⅠ</p>	<p>【評価】 個に応じた指導 (▲)</p> <p>▲どの分け方か選ぶことができない児童には、内容を確認したり文章と一緒に読んだりすることで、選ぶ根拠を明確にすることができるようにする。</p>
<p>「なか」はどこのだんらくまで? 理由をはっきりさせてリーフレットを書き進めよう。</p>		
<p>2 中心教材を読み、どの分け方が妥当か決め、その理由を書く。</p> <p>僕は、⑪段落からの方がいいと思うよ。</p> <p>私は、⑭段落からの方がいいと思うな。</p> <p>3 選んだ理由を交流する。</p> <p>どの分け方がふさわしいのか、理由をはっきりさせよう。</p> <p>⑪段落で分けると、「たしかめ実験」までが「なか」になるね。</p> <p>⑭段落で分けると、「ひみつ」までが「なか」になるね。</p> <p>「ところで」は「では」と使い方が似ているよね。ということは、話題を切り替える言葉かな?</p> <p>「はじめ」の時と同じように、話題が切り替わるなら、まとまりも変わるはずだ。じゃあ、「おわり」は⑪段落からのはずだね。</p> <p>でも、「なか」のまとまりが⑩段落までつながっているという証拠の言葉はあるのかな。</p> <p>「まず」は、つなげていく言葉だね。「そこで」や「今度は」「こうして」という言葉もあるよ。</p> <p>⑧の問いの文の上には、話題を切り替える言葉がないから、⑦段落とつながっているね。</p> <p>つなげる言葉に注目すると、やっぱり③から⑩までがつながっていることがわかったよ。</p>	<p>○「証拠は?」「どうして?」と問い直しながら教師が関わることで、現時点でどの文章・表現を根拠として選択したのかを明確にできるようにする。 手立てⅡ</p> <p>○「どの分け方を選んだのか」を問うことをきっかけとして関わりながら、それぞれが選んだ理由を交流することができるようにする。</p> <p>○「分け方のちがいを」を問うことで、個々にとどの言葉や文に着目して「なか」と「おわり」のまとまりを分けたのかを比較できるようにする。 手立てⅡ</p> <p>○「では」と「ところで」の言葉を比較することで、「ところで」という話題を切り替える言葉の役割への気付きを促すことができるようにする。 手立てⅡ</p> <p>○「なかのまとまりがつながっている証拠」を問うことで、「まず」「そこで」「こうして」などの接続詞や、なかとおわりの始まりである③、⑪段落と⑧段落とのちがいに着目できるようにする。 手立てⅡ</p> <p>○「なかのまとまりがつながっている」という理由に一定の妥当性を持つことができた後、「本時で着目した言葉」を問うことで、分けることができた理由に根拠を持つことができるようにする。 手立てⅡ</p>	<p>【ノートへの記述】</p> <p>▲対話の内容を捉えることができない児童には、教師が聞き直したり、隣の児童と確認する時間を保障したりすることで、捉えることができるようにする。</p> <p>△⑩段落「こうして」や、③～⑩段落の繋がりに着目している児童がいた場合は、その姿を称賛し、取り上げて紹介することで、他の児童がそのよさに気付くことができるようにする。</p>
<p>「ところで」という話題をくぎる言葉や、「まず」「そこで」「こうして」などのつなげる言葉に注目すると、「なか」と「おわり」のまとまりを分けることができる。</p>		
<p>4 自分が選んだ科学的読み物を読んだり、リーフレットを書いたりする。</p> <p>自分が選んだ文章も、同じ分け方で分けることができそうだな。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、次時の見通しを持つ。</p>	<p>□自分が選んだ科学的読み物を読んだりリーフレットを書いたりする時間を保障することで、結論とその理由や根拠の関係を捉え、使いこなすことができるようにする。 A-②</p> <p>○学習計画を確認することで、次時の見通しを持つことができるようにする。</p>	<p>【ノートへの記述】</p> <p>▲△本時で見られた姿を十分に称賛し価値付けることで、次時の学習の意欲に繋がられるようにする。</p>